



家族を考える

家族は一番身近にいてくれる存在です。でも、だからこそいろいろな関わりの中で悩むこともあれば辛いこともあります。そこで、改めて家族について考える本をご紹介します。



・真実の口

いとう みく

講談社

913-イ

雪の降る夜、迷子の女の子を交番に連れて行った中学生3人組。この選択は正しいはず。でも女の子の態度には違和感が…。否定しきれない疑念は、しだいに確信へと変わっていきます。普通の家族って何？大人社会は信用できるの？高校生になった3人組の真っ直ぐな行動力にハラハラします。

・そして、バトンは渡された

瀬尾 まいこ

文藝春秋

F-セ

高校三年生の優子は、幼いころに母を亡くしています。血のつながっている本当の親と過ごした記憶はほとんどないのです。その後、優子の家族は何度か変わり、父親や母親だった人とも会うことはありません。けれども優子は全然不幸ではないのです。

・水を縫う

寺地 はるな

集英社

F-テ

清澄(きよすみ)は、縫いものが好きな高校一年生で、祖母、母、姉と一緒に暮らしています。清澄に手芸の面白さを教えてくれたのは、祖母でした。姉は秋に結婚する予定ですが、フリフリやぴらぴらが嫌いなので、シンプルなドレスをつくってほしい、と清澄に頼みます。

・あした、弁当を作る。

ひこ 田中

講談社

913-ヒ

いつも通りのはずなのに今日の僕はなんか変。母親に触れられるだけでゾクツとしたり、せっかく作ってくれた母親のお弁当も重たく感じる。このモヤモヤを払拭すべく、タツキは自分でお弁当を作ることに決めました。自立心や家族の在り方に揺れ動く中学男子の物語。

・ウィズ・ユー

濱野 京子

くもん出版

913-ハ

家に居場所がないと感じる悠人は、夜の公園でポツンとブランコに座る朱音(あかね)と出会います。自分がいなければ、うちがこわれるという朱音。朱音の力になりたいという思いが、悠人の家族や友人への向き合い方を変えていきます。あきらめず、言葉にすることの大切さに気付かされる、中学生の物語です。

・みかんファミリー

椰月 美智子

講談社

913-ヤ

中学生の美琴(みこと)は、母と祖母の3人暮らしです。ところがある日、母の元同級生の家族と一緒に住むことになりました。その家族は、母の同級生とその娘、孫の3人で、孫の野々花は、美琴と同じ中学校の同学年でした。最初はぎくしゃくしていた美琴と野々花も、しだいになじんでいきます。

・ぼくが弟にしたこと

岩瀬 成子

理論社

913-イ

・星やどりの声

朝井 リョウ

KADOKAWA

F-ア

・オー！ファーザー

伊坂 幸太郎

新潮社

F-イ

・9月9日9時9分

一木 けい

小学館

F-イ

・東京バンドワゴン

小路 幸也

集英社

F-シ

・朝が来る

辻村 深月

文藝春秋

F-ツ

・さくら

西 加奈子

小学館

F-ニ

・お父さんはユーチューバー

浜口 倫太郎

双葉社

F-ハ

・カラフル

森 絵都

文藝春秋

F-モ

・雨上がりの川

森沢 明夫

幻冬舎

F-モ

・家族だから愛したんじゃなくて、愛したのが家族だった

岸田 奈美

小学館

914.6-キ